

tam tam

2022.11
VOL. 19

P1 [特集]
地域を支える図書館の役割

P2 [特集] 地域づくりを支える図書館
学校図書館の充実がもたらすもの

P3 隣の自治協さん「春日部地区自治協議会」
丹波市民、学びの窓「地域と神社・お寺」

P4 繋ぐ!市民活動「丹波市少年少女合唱団」
活動事業紹介「タンバンベルグ」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

地域を支える図書館の役割



鳥取県南部町 キナルなんぶ(2021年に開館した図書館を核とした複合施設)

図書館にどのようなイメージを持ちますか。静かに本を読む場所や子どもたちが利用する場所をイメージされるかもしれませんが。最近では、にぎわいや交流を生み、学びや活動の拠点として市民の暮らしを支えるという新たなコンセプトを持つ図書館が各地に誕生しています。社会教育施設の中では公民館は減少している一方で、図書館は年々数を増やしています。

例えば、丹波市の近隣においては「まちと人・人と人をつなぐ交流空間」を目的とした複合施設「市民交流プラザふくちやま」(福知山市)、「人つどい 人つながり 人はぐくむ 交流の場」

をコンセプトとした複合施設「みらいえ」(西脇市)がこの10年以内に新たに開館しました。また、多可町では「あらゆる世代が互いに学びあい、教えあい、人がつながるまちをつくる」拠点として、図書館を核とした「多可町生涯学習まちづくりプラザ」の建設が計画されています。丹波市では旧町ごとに設置された6つの図書館があり、丹波市立図書館は「くらしにとけこむ図書館づくり」、「多様な図書館サービス」、「市民協働による図書館活動」の充実に向けて取り組んでいます。今回は、地域における図書館の新たな役割や学校図書館の取り組みについて考えていきます。



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

Topics 01 地域づくりを支える図書館

図書館の主なサービスとして、本を借りることはもちろん、調べ物や勉強ができる場所の提供や知りたい情報を図書館職員に相談できるレファレンスサービスがあります。その他にも、図書館の役割は多様です。

市外の事例として、先日、センターのスタッフが鳥取県南部町に視察研修に伺いました。南部町では、2021年に「キナルなんぶ」という図書館を核とした交流・学習のための複合施設が開館しました。南部町の行政職員は、施策の検討や業務に必要な資料の収集に図書館を積極的に活用しており、図書館が地域づくりを担う行政職員を支えるサービスに取り組んでいます。また、郷土に関する資料の収集・保管以外に、地域で行われるイベントのチラシや発行物も積極的に収集し、地域の出来事を残していくアーカイブ機能

の強化に力を入れています。行政職員へのレファレンスサービスの充実により、図書館と行政部局との情報共有が促進され、利用する住民が得られる情報が増えるなど図書館サービスが向上する効果も生み出していました。



※こちらの特集の用語解説をウェブ版 tamtam（ウェブたむ）に掲載しています。そちらもご覧ください。

(<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/tamtam/>)

Topics 02 学校図書館の充実がもたらすもの

身近な図書館として、丹波市立図書館のほかに、各小中学校には学校図書館があります。西小学校では、コミュニティ・スクール活動の一環として学校図書館を拠点に「地域とともにある学校」を目指して取り組まれています。学校と地域の連携を担う地域学校協働活動推進員と18人の児童有志が「行きたくなる学校図書室」を目指してレポリユーションチームを立ち上げ、夏休み期間に図書室の模様替えを実施しました。児童の意見やアイデアを取り入れながら、木の椅子にペンキを塗り、不要になったソファや畳を運び入れ、児童や先生はもちろん、地域の皆さんにも来てもらえる場所として図書室を生まれ変わらせました。

学校図書館運営には学校司書という存在があり、学校図書館法で「置くよう努めなければならない」と規定されています。丹波市では学校司書が配置されておらず、9月定例議会の一般質問で学校司書の配置について取り上げられました。学校司書

の役割として3つの点があり、①教員と連携して授業づくりをサポートする存在、②本と親しむ居場所を作り、子どもと本をつなぐ存在、③子どもたちの調べもの学習や知りたいという探究心をサポートする存在です。近年では討論や発表を通じた「アクティブ・ラーニング」の視点が重視され、児童・生徒1人1台タブレットが配布されるなど、インターネットを活用したコミュニケーションや調べもの学習の重要性が増している中で、幅広い情報の活用を支援する「学習・情報センター」としての役割が求められています。学校図書館と公共図書館との連携が進めば、子どもたちの読書活動が活発になり、相乗効果が期待されます。

図書館は誰もが楽しく過ごせる場所として人々の知りたい、学びたいに応えるともに、市民活動、地域づくり活動を支援する役割を担っています。今後、図書館の利用者が増え、市民1人ひとりの「知りたい」が深まっていくことが期待されます。



地域学校協働活動推進員の中村さん



「にししゅうとしょかんレポリユーション」により整備された図書室

隣りの 自治協 さん

TONARI no
JICHIKYO san

春日部地区自治協議会

住民が利用しやすい居場所を目指して

春日部地区自治協議会（以下、自治協）は、春日地域の春日部小学校区に設置され、人口約 2,000 人、約 800 世帯、6 自治会で構成されています。小富士山や日ヶ奥溪谷など豊かな自然環境に恵まれているが、近隣に高速道路 IC や駅のある交通利便性の高い地域でもあります。

拠点である『はるへの郷 春日部荘』はかつての市立老人福祉センターの建物で、阿陀岡神社に隣接しています。地域を盛り上げるため自治協として実施している神戸元町マルシェへの野菜出荷の拠点として利用しています。

住民にとってはもともと馴染みがあり、多くの人が集まる場所だからこそ、カーポートを設置したり、換気設備を新設するなど、より利用しやすい施設となるよう取り組んでいます。

住民と接する最前線にいるからこそ

自治協では、毎月発行する広報紙での住民への情報発信にも力を入れています。もともとは各自治会や地域団体のイベントをまとめていましたが、徐々にイベントが少なくなっていく中で、方向転換。ごみ削減、空き家・耕作放棄地といった地域が直面している課題について取り上げるようになりました。最近では少子高齢化の問題について、自治会単位の年代別人口／高齢化率を掲載するなど、住民がより自分ごととして向き合えるように工夫しています。まずは地域の現状を知ってもらい、1人でも多くの方に共通の問題意識を持ってもらうことが狙いです。

また、自治会や既存組織に対する見直しにも目を向けています。地域では、様々な役や自治会費の名称も自治会ごとに異なっています。まずは名称の統一から、隣りの自治会がどのような地域運営をしているかの情報交換を進めています。まだ始めの小さな一歩かもしれませんが、これまで動き始めることができなかった大きな見直しに向かい、まずはできることから着実に取り組んでいます。



農地保全にも一役かっているマルシェ出荷



毎回、違う地域課題について、詳しく紹介する広報誌

丹波市民、学びの窓

変わりゆく地域と神社・お寺のこれから

神社・お寺（以降、寺社）は、神様や仏様をお祀りする宗教信仰に基づいた施設です。地域においては、お祭りや地域の行事、人生の節目行事などを通して、人が集まり交流し、心をよせるコミュニティの中心的な場所として密接に関わってきました。

例えば、丹波市内には神社が228社*あり、集落に1つは神社があるところが多いです。これは全国的には珍しいことで（人口1万人あたりの神社数全国平均6.4社）、特に丹波市内は寺社が身近にあるということがわかります。

ただ、長年、地域の拠りどころの1つであった寺社にも、地域社会の変化の影響が少しずつ現れています。

人口減少や関心・地域のつながりの希薄化などによる寺社を支える氏子や檀家の減少は、担い手の不足、寄付でまかなわれる資金の不足などにつながり、運営管理や建物の維持が難しくなっています。お祭りや行事、奉仕作業なども、活動が最小限になり、文化や伝統の継承が危ぶまれている地域が少なくありません。

こうした変化や課題がある一方、写真スポットのPRや、境内でカフェをオープンし、訪れる人を増やす工夫など、寺社への親しみ方・交流が多様化しています。人口が減少している地域の寺社では、現代の寄付の形であるクラウドファンディングを活用して支援者を募り、存続を図っ

ているところもあります。

地域の拠りどころとしての役割は、コミュニティの変化に合わせ、形を変えています。しかし、変化の中でも、人の交流があり、支える人がいることは昔も今も続いていきます。歴史や文化、伝統といった地域のアイデンティティを伝えるかけがえのない財産である寺社を、どう継承していくのか、これからの地域を考える上でポイントの1つではないでしょうか。

* 兵庫県神社庁把握の丹波市内神社の数



過疎地域での活性化取り組み（神社本庁ホームページより）



繋ぐ! 市民活動

丹波市少年少女合唱団

1975 年 11 月に活動をスタートした丹波市少年少女合唱団。団員も指導者も移り変わる中であっても、歌声を通して心のハーモニーの輪を広げ、青少年の健全な育成をはかることを大切にして活動を続けてきました。

現在の団員は小学 1 年生～高校 3 年生の 24 人で、童謡、唱歌、ポップス、合唱曲などを練習しています。主な発表の場は、定期演奏会、丹波合唱祭、丹波市音楽祭、クリスマスコンサートのほか、地域のイベントに出演依頼を受けて参加することもあります。

活動を通して、表現力の向上と学年や学校を越えた仲間づくりができ、控えめだった団員が、練習や発表に仲間と取り

組むことで積極的になる姿も見られます。合唱団で小学生の頃から 8 年間活動続けてきた足立心椛さん（17 歳）は「これからもずっと歌に関わっていきたい。歌うと楽しくなる。感情をどう表現するか考えて伝えるのが楽しい。」と話します。

丹波市少年少女合唱団では随時団員を募集しています。練習は毎週土曜日 9 時～11 時、主に柏原自治会館で行い、練習の様子や詳しい団員募集の情報は、団体のホームページで発信しています。

【今後の活動予定】

クリスマスコンサート

日程：2022 年 12 月 24 日（土）

場所：丹波市市民プラザ



去年のクリスマスコンサート



振り付けの練習中「指を見る？前を見る？」
みんなで考えます



活動事業者紹介

株式会社タンバンベルグ

丹波市民なら誰もが知っている「丹波ゆめタウン」。その運営を担う株式会社タンバンベルグは 29 年前の 1993 年 11 月に設立、ゆめタウンはその 3 年後にオープンしました。『丹波ゆめタウンを通じて、地域社会に貢献する』を経営理念に、「単に買い物や食事に来るだけでなく、いろいろな人たちが集う場にしていこう」と 3 代目代表取締役の土井恵介さんは社員とともに、ゆめタウンという拠点を生かした様々な地域貢献に取り組んでいます。

その 1 つがポップアップシネマ。以前からリクエストがあった映画企画として、これまでに 9 作品上映。映画館に足を運

びにくいシニアや子育て層を対象にして、映画を選定しています。またポップアップホールを会場としたフレイル予防教室を神姫バスと連携し、実施。シネマも含め、バスで来場された方に乗車料金の補助も行い、公共交通の利用促進にもつなげています。さらには、災害時に避難場所等に施設を利用する協定を丹波市と締結。1,200 台の駐車場と年間 200 万人以上の来館がある「コミュニティの場を有する複合商業施設」として、今後も様々な組織と連携し、拠点を生かした地域に必要とされる事業を展開していきます。



乳がん啓発活動の象徴ピンクリボンにちなんだ
ピンクライトアップ



神姫バスに乗って「フレイル予防教室」に来場



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。